

# 教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)  
予約購読料 1年分 千共 5,000円  
紙代のみ 3,500円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話 03(3202)0546  
FAX 03(3207)3918  
E-mail: shimpoh-c@uccj.org  
発行人 竹前 昇  
編集主筆 竹澤 知代志  
印刷所 株式会社きかんし

## 05年度宣教方策会議

### 神戸栄光教会を会場に、4年ぶり開催



—昨年、震災前の姿に再建された神戸栄光教会

### 開会礼拝

### 「神義論を超えて」

山北宣久教団総会議長はエレミヤ書二章一〜六節による説教の冒頭に、「その歴史の半分以上が所謂紛争に費やされ『教団には宣教も方策もない』と言われる時、今回の会議の意味はそれなりに重い。教団の体力が落ちている中、体力測定し、改善・回復の契機とされたい」と辛辣とも聞こえる表現で語った。現状分析

も釈義も濃厚な内容であり、以下に概要・要点ではなく触りを記す。  
世の現実と向かい合う時に、「何故悪人が栄え善人が苦しむのか」という神義論的問いが生まれる。この箇所では事はより複雑で、神に逆らう者も彼らなりに神を信じている。口先では神よ神よという人がエレミヤを苦しめている。神が主導

戒能信生前宣教研究所資料室長は、「教勢から見た日」

### 教勢から見た教団の伝道の歴史

本基督教団の伝道の歴史」と題して発題した。

程と納得する統計もあったが、戦時四二年の教勢のあまりにも意外な堅調「教団紛争によって教勢は減少したか？」という項目で、七

「再建伝道」の項では、様々な方式による伝道によって生み出された教会の推移を数字で追い、教勢の増減に留まらない伝道方策の本質に迫った。

また、機構改正によって宣教の主体は教区に移ったが、教区は互助体制の構築など既存の教会の維持に力を注ぐこととなり、教団としての伝道プロジェクトは策定されなくなり、例えば大都市郊外への積極的な新規開拓伝道などは鈍化した

と指摘した。  
多岐にわたる各種の統計一覧表が用意されており、その項目を紹介するにも紙数が足りない。会員の年齢別構成や受洗者数の推移と、その数字が物語るものについて、受洗者の高齢化は、見方を変えれば、教会の成熟を表しているとも言えるという戒能氏の見解も興味深い。

また、教区別の統計から、地方教区が人口減少の中で健闘しているのに比して、

三月六〜七日、阪神淡路大震災から一〇年、会堂再建だった神戸栄光教会を会場に、二〇〇五年度宣教方策会議が開催された。二年前は宣教理解の違いから主題をしばらく切れず開催できなかったのが、四年ぶりの開催となった。今会議自体の評価についても見解は分かれるだろうが、一人の信徒参加者から「宣教方策会議の名にふさわしい会合であり、実のあるものだった」という感想を聞いた。とにかく、同じテーブルで、共に学び、話し合った。その意義は大きい。

自己流に都合よくキリストを礼拝することだ。  
矛盾・不条理も主の十字架の光の中で受け止める以外にはない。主は神義論にまさる矛盾・不条理の中に身を置きながら「父よ彼らを赦して下さい」と息も絶えだえに執り成しの祈りを

され、私たちの救いとなられた。この執り成し・裏打ちがあればこそ、私たちは厳しい現実に向けて宣教の課題を共に担うべく出かけていける。

エレミヤはどんなに苦しくとも虚無的懐疑に陥ることとはなかった。歴史の中に働き給う神を信じたからであり、イスラエルという共同体から離れた個としての神を問題にしなかったからである。私たちも、神の臨在に励まされて共通の使命のために励み行きたい。

「今、私たちの教会は過渡期にあり、この一年二年をいかに過ごすかに五〇年後、百年後の未来がかかっています。そんな話を教会総会で、昨年も一昨年もした。会員の高齢化、建物の老朽化、新来会者の激減、間違いない正念場にある。ホームページ開設準備のために教会の沿革をまとめている所に、役員の一人在二〇年昔の『信徒の友』を持ってきた。短期間に四〇名の葬儀が行われたこと、教会創立時の会員が高齢となり、九〇才を超えた人もあるという説明文の後に、前任牧師のこんな言葉が載っていた。『その意味では、いま大きな節目にあることは確かです。これから次の後継者を育てる、これが私たちの教会の大きな課題です』▼多分、何時でも、何所でも、教会は節目にあり、正念場であり、危機であり、チャンスなのだろう。何時の時代にあっても、教会の一番大きな課題は、人を育てることなのだろう。

▼二〇年昔の写真に、現在も礼拝を守っている人の顔は殆どない。二〇年三〇年先の見通しもまして保障も教会にはない。しかし、不思議に、花は咲き実がなる。種を蒔き続けている限り。

### 宣教委員長基調報告

開会礼拝の後、岩崎隆教団宣教委員長から基調報告がなされ、副題に上げられた通りに（宣教方策会議開催の経緯について、詳細に述べられた。02年に開催された前回会議を、「合同教会の歴史の部分については、主題講演の講演者や発題者たちによって良い学びが出来た。一方、信仰告白を巡る議論からは、光明は感じ取るこの年」と今回の開催ことが出来なかった。全理由について説明した。

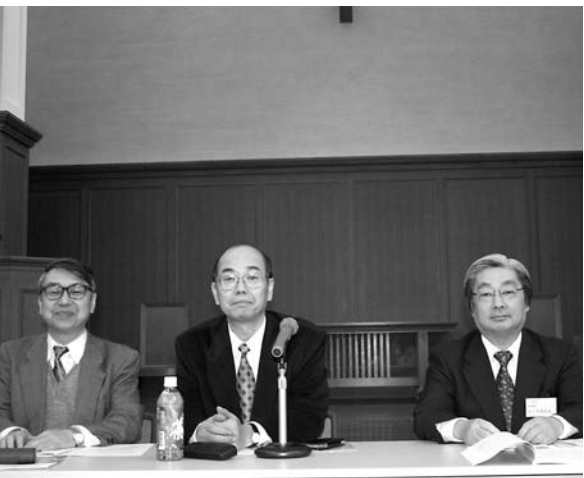
戦前と戦後の教勢比較では、大規模な教団離脱等の複雑な要因が絡み合っており、数値の精度の問題、用語概念の多様さもあり、一面的に見ては読み誤ることを教えられた。にも拘わらず、数字は雄弁に語る。成

また、戦前に比較すれば千八百中千の教会が解散または離脱し、九百の教会は戦後に立てられたという表面では見えない数字が示された。

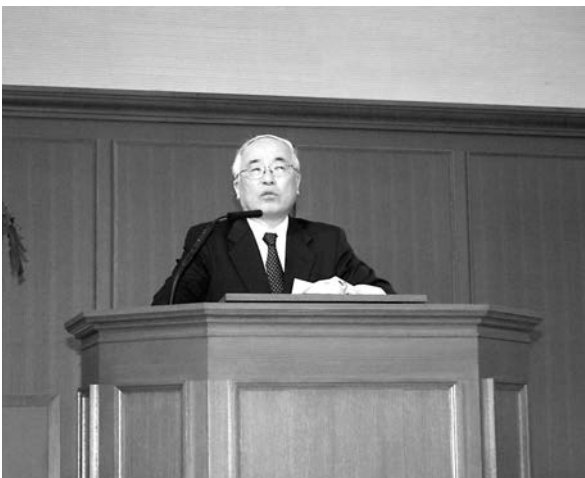
更に、「戦後の教団の伝道の進展（六八年機構改革まで）、「新規開拓伝道（含

と指摘した。  
多岐にわたる各種の統計一覧表が用意されており、その項目を紹介するにも紙数が足りない。会員の年齢別構成や受洗者数の推移と、その数字が物語るものについて、受洗者の高齢化は、見方を変えれば、教会の成熟を表しているとも言えるという戒能氏の見解も興味深い。

また、教区別の統計から、地方教区が人口減少の中で健闘しているのに比して、



発題者、中央が戒能信生氏、右が佐々木美知夫氏



山北宣久教団総会議長による開会礼拝説教



「今、私たちの教会は過渡期にあり、この一年二年をいかに過ごすかに五〇年後、百年後の未来がかかっています。そんな話を教会総会で、昨年も一昨年もした。会員の高齢化、建物の老朽化、新来会者の激減、間違いない正念場にある。ホームページ開設準備のために教会の沿革をまとめている所に、役員の一人在二〇年昔の『信徒の友』を持ってきた。短期間に四〇名の葬儀が行われたこと、教会創立時の会員が高齢となり、九〇才を超えた人もあるという説明文の後に、前任牧師のこんな言葉が載っていた。『その意味では、いま大きな節目にあることは確かです。これから次の後継者を育てる、これが私たちの教会の大きな課題です』▼多分、何時でも、何所でも、教会は節目にあり、正念場であり、危機であり、チャンスなのだろう。何時の時代にあっても、教会の一番大きな課題は、人を育てることなのだろう。

▼二〇年昔の写真に、現在も礼拝を守っている人の顔は殆どない。二〇年三〇年先の見通しもまして保障も教会にはない。しかし、不思議に、花は咲き実がなる。種を蒔き続けている限り。



## 05 年度宣教方策会議

# 危機を乗り越える信仰

## 財政から見た教団の現状と課題



参加は計 88 名

「佐々木美知夫常議員の発題は、『財政（経済状況）から見た日本基督教団の教会の現状と課題』。統計に如実に表れた数字から、献金額と現住陪餐会員の減少、高齢化のもと信徒の経済負担が限界に近づいていることなど、教団が抱えている問題点を鋭く指摘した。

「教区総会議案・報告書に現れた各教区の財政課題」では、互助制度と小教会援助が、全ての教区で課題となっていること、一六教区の合計は二億円で、教団負担金の70%、二・三教区分の経常会計に匹敵すること、更にこの会計を支える信徒の過半数が六〇才以上であること、更に教区諸会計に占める教区間互助の割合が増大していることを指摘、教区活動の縮小、教師を経済的に支えられない小規模教会が存続出来ないといったことが現実の課題となっていると述べた。

「厳しい現状を描き出した後、宣教委員会からの要望は『危機感の共有』であったが、このまま終わってはいけません。希望も無いので」と、将来に向け何をなすべきか、次の意見を述べた。

「教団紛争」は教会経済にも大きな陰を落としている。今は教団という全体教会と各個教会に与えられた福音宣教の使命に立ち帰り、主の栄光を求めて働きを始める時期、信頼回復を深める協力なとして経済的危機を乗り越えることはできない。教会の体力がある間にこ

そ、宣教・伝道体制の構築をしなければならない。出ることから始める必要がある。

発題の冒頭には、教規、教憲、生活綱領に基づいて教会財政の性質・意義を解説的に述べたが、最後も、次のように宣教と経済を関連づけて述べた。教会の経済は信徒の捧げもの、それと立つことが必要となる。

.....

### 教区からの報告

東北・西東京・西中国・四国

四つの教区から二〇分ずつの報告がなされたこと、更に北海・関東・沖縄教区との協力・交流、教区内の互助体制構築についても取組の状況が述べられた。

西中国教区は、滝澤貢教区宣教委員長が、具体的に数字を上げて、教勢の分析結果を報告した。「奥羽・西中国で伝道・牧会して来たが、自分より若い教員に出会ったことがない」

「年々謝儀が上がる牧師は、教会にとって不良債権に等しい。その自覚から発想をスタートしなければ」など、深刻な現実を刺激的な言葉で表現したが、その一方で、「諸教会の特性・タラントを活かし、違いを前提にして一つとなることが信頼」だとし、困難な状況で、教区が積極的に宣教課題へ取り組んでいることが詳しく述べられた。

四国教区は、黒田若雄教区書記が、ほぼ教区互助の現状と課題にのり報告した。特に、互助制度を生み出した歴史的背景について、各県と旧教派の意識が

強くて一体感を持ち得なかった教区が、互助に取り組むことによって、一体感を醸成し、牧師の在職期間が長期化したことで安定した教会形成が可能になったと、教団全体への示唆が与えられた。一方「日本で最も早いスピードで少子高齢化が進む地域として」いかに制度を維持運営して行くのか、厳しい現状についても述べられた。

閉会礼拝は、葬儀で欠席した担当予定者に代わり急遽立てられた小西望教団宣教委員長が、プログラム通りの箇所・出エジプト記二四

## 宣教方策会議開催を感謝

### 第四回宣教委員会



宣教方策会議の全日程を終え、直ぐに委員会

第34総会期第四回宣教委員会が、三月七八日、宣教方策会議に引き続いて神戸栄光教会を会場に開催された。

開会礼拝を北紀吉委員長担当、エレミヤ書八章一八〜二七節に基づいて説教した。

常議員会、常設専門委員会等の報告がなされた。この中で、第三回委員会でも主活動団体となることが承認された「全国教会幼稚園連絡会」に、昨年一月同総会場で認証書が手渡されたことが報告された。ほか、以下のような協議を行った。

まず宣教方策会議の評価

と反省を行った。第33総会期は宣教理解の違いから対立・すれ違いに終わることを危惧して開催を見送られたこの会議であったが、前期委員会内での学び、さらには各教区の宣教委員長またはこの代わる担当者からの報告を受けての準備を経て、四年ぶりにこれを開催できたことは今後への希望となった。

今回は、主に教勢と財政の観点から教団の諸教会・伝道所の歩みと現状について理解を深め、一定の認識を共有できたと思われる。協議・提示された諸課題は当委員会をはじめ諸機関・委員会での研究・論議でも扱い、将来の宣教方策の取りまとめに向かつていく必要がある。沖縄教区より教区推薦出席者がなかったこ

る話題が取り上げられ、その様子が全体会で報告された。多くの分団が最も時間を割いたことは互助体制のことだった。

発題者に対して厳しい注文が付けられ、また



9 の分団に分かれ熱心な議論は続いた

## 教師検定試験公告

二〇〇六年秋季教師検定試験を左記の要領で行います。

### 一、受験要綱と受験願書の提出期限

受験要綱と教団指定の願書用紙は一六〇円切手を同封し、正教師受験志願者か補教師（A、B、Cコースの別も）受験志願者かを明記した上、封書でお申し込みください。願書と必要書類を整えて、受験料とともに所属教区に提出してください。

教区締切 六月八日（木）（教区により締切が異なりますので、教区事務所に確認してください）

教団締切 七月六日（木）（各教区から教師検定委員会に提出する際の締切です）

\*受験料は正教師一万三千円、補教師一万円。

### 二、正教師の「説教」「釈義」の課題テキスト

①旧約 エレミヤ書 三二章一七〜三四節  
②新約 ペトロの手紙一 四章七〜十一節

### 三、正教師の「神学論文」の課題

「今日における宣教の課題」。「特にをめぐって」という副題をつけ、ご自分の伝道・牧会をふまえて神学的に論述してください。

### 四、正教師の「組織神学」の課題

「義認と聖化について」宗教改革期の議論をふまえて組織神学的に論述してください。

### 五、補教師の「説教」「釈義」の課題テキスト

①旧約 出エジプト記 十三章十七〜二三節  
②新約 ヨハネによる福音書八章三二〜三八節  
※コースによって異なりますので、必ず受験要綱でご確認ください。

### 六、補教師（Cコース第三年）の牧会学の課題

「牧会とは何か」について論述してください。

### 七、提出締切について

当委員会への提出締切日は、「説教」「釈義」に関しては、七月六日（木）消印有効、「神学論文」「組織神学」「牧会学」に関しては、七月十日（月）消印有効です。

### 八、学科試験と面接について

学科試験は九月二六日（火）、面接は九月二七日（水）、九月二八日（木）に大阪クリスチャンセンタ―において一会場を実施します。詳細は直接、受験志願者に通知いたします。不明な点は直接、当委員会へお問い合わせください。

二〇〇六年四月 日本基督教団教師検定委員会  
〒一六九一〇〇五一 東京都新宿区西早稲田二一三ー一八ー三二 ☎（〇三）三二〇二一〇五四六



# 基地等の問題について現地研修

## 沖縄・ぎのわんで第四回社会委員会開催

第34総会期第四回の委員会を(一〇六年二月二七日(月)午後一時)三月一日(水)午後一時、沖縄のぎのわんセミナーハウスを会場に開催すると共に、基地等の問題について現地研修を行った。

協議された主な事項は下

記のとおりである。

1、左記の発題を委員二名が担当した。

〈発題1〉「パレスチナ問題に関する問題提起」山本光一委員。

〈発題2〉「知的障害者への福祉と今日の課題」長沢道子委員。

2、奥羽教区から二〇〇六年二月一五日付けで、「三陸南地震被災復興支援報告書送付とお願いの件」が届いたので対応を協議した。復興のためにお苦勞しておられる。要請があれば再度募金を実施することとした。

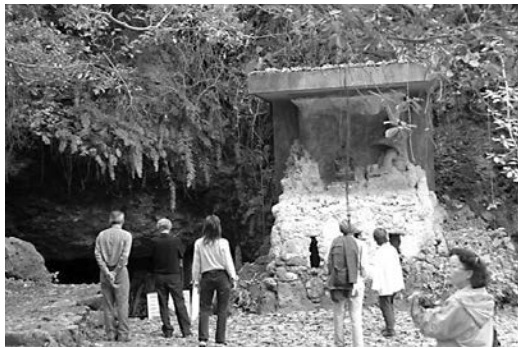
3、フィリピンのレイテ島での大規模地滑災害の被災救援募金について協議した。ACTからの要請を待つて具体的な対応を検討することとした。

4、社会福祉施設援助金(クリスマス献金二八〇万円)の配分のために各教区に推薦をお願いすることとした。一件につき一五万円を目処に実施する予定である。

5、全国社会委員長会議の開催について協議した。前総会期の委員長会議で問題が起こり、その反省と総括が未だできず、かつ、会



嘉手納飛行場を外から眺める



読谷の集団自決で多くの方々が亡くなったチビチリガマを見学

### 中部 教団年金を支えるための役者を生み出すために 楠本史郎

中部教区総会では〇四年度より教区内諸教会の経常収入総額の〇・五%を教区通常会計から謝恩日献金として教団年金局に捧げること

### 教区 コラム

動きは順調とは言えない。中部教区の実情も変わらない。しかし年金資金の確保は待ったなしである。教師の隠退後の生活を補助的に支える教団年金は教団全体の課題である。み言を宣べ伝える教師を生み出し、支えるために不可欠な制度である。伝道に生涯を捧げた教師の老後に配慮してこそ、教団は教師を生み出す教会と

て、今委員会での研修報告や発題等を掲載することとした。

7、次回委員会について協議し、憲法問題や国家と宗教の問題を含め、今日における教会の社会的責任」と題して滝野川教会の深井智朗牧師から講演を伺うこととした。これは前総会期問題小委員会での講演と発題が内容の中心となる。第40号は九月発行を目標として、

以上が協議内容であるが、今委員会は沖縄基地問題等の現地研修を、ぎのわんセミナーハウス研修プログラムに従って実施することができた。天候にも恵まれ、セミナーハウス職員のア吉京子さんには懇切丁寧な案内と説明をしていただいた。訪れた場所は左記のとおりである。

二月二七日(月)、嘉数

高台、米軍ヘリコプター墜落事故のあった沖縄国際大学、佐喜真美術館。

二月二八日(火)、端慶覧、砂辺・嘉手納、読谷、金武、辺野古を含む名護北部。

ことに、普天間基地の移転候補地となっている辺野古では、海上基地建設予定地を遠くから観察すると共に、「米軍基地再編反対」、基地建設阻止のために作られているテントをお訪ね

## 「ひとつの教会となるための招き」採択

### 世界教会協議会(WCC)第9回大会

の渡部信の各氏が出席した。代議員は約七〇〇名だったが、全体の参加者は四〇〇〇人になった。

今大会の主題は「神よ、あなたの恵みによって、世界を変革してください」であった。この主題に込める

本からは二期一四年間勤めの職制の相互承認などを論じている。また約三四〇の加盟教会に声明の検討を求め

中央委新議長にワルター・アルトマン牧師(ブラジル・ル・テル福音教会議長)がカトリコス・アラム一世(アルメニア使徒教会)の後任として選出された。また八名の新議長が世界各地から、またギリシャ正教会と東方正教会から選ばれた。理事に相当する中央委員一五〇名も選出され、日

大会は毎日朝八時三〇分の礼拝に始まり、グループでの聖書研究、全体会、夕方六時三〇分の夕拝で終了した。夕拝終了後や昼食休憩時だけでなく大会プログラムと並行して多くの「ムティアラオ(ブラジル語で集会所の意)が催され、ワークショップ、展示、イベントなどがなされた。また、三分団に分かれて「エキ



全体会の様子



ツツ大司教を先頭にサンバのリズムで平和行進

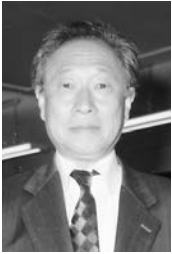
ユメニカル対話」がもたれ、様々なテーマで協議された。

全体会では、経済的正義、宗教的多元性、暴力の克服、教会の一致についての発題と協議がなされた。ムティアラオ、エキ

WCCは一九七〇年代、八〇年代に南アフリカのアパルトヘイトその他の差別暴力構造解消のために人種差別撤廃プログラムを展開して大きな成果をあげた。今年は二〇一一年から開始した「暴力克服の十年」プログラムの中間点にあり、後半の五年間について協議された。しかし、課題が多すぎて焦点が定まら

### 消息

熊谷 綱氏(隠退教師)



二月三日、逝去。七七歳。東京都に生まれる。一九五五年青山学院大学基督教学科卒業後、五六年から九七年まで関西学院大学に教務教師として奉職し、二〇〇〇年隠退した。五八年から五九年まで初芝教会を牧会した。遺族は妻の陽子さん。



# 伝道のともしび

## 交わりのうちに働く神

半田教会牧師 横山ゆずり

「ヨナはよげんしゃ、むかしよげんしゃ…」(山崎てつや作詞・作曲)の賛美と一緒に、昨年のクリスマス会ではヨナの物語が子供たちによって演じられた。教会学校に集う子供たちが教会学校教師の作った台本を下に劇を披露したので。その中でなんと言っても目を惹いたのはヨナを飲み込んだ大きな魚であった。実はこれ、クリスマスよりさらに五ヶ月前、幼小科(四歳〜小学二年生)の夏期学校で作られた。子供一人が入れるほどの木箱を魚の胃袋に見立て、その上に生き物大好きな牧師がタ

ンポールで魚をかたち取り、子供たちが装飾できるようお母さんたちがダンポールの上から新聞紙を貼って作った張りぼての魚。それを夏期学校当日、何色もの色画用紙で出来た鱗に模様を施し、子供たちが魚に貼り付けて完成させた。出来上がった魚は翌日、劇中ヨナを飲み込んだ魚として大活躍。メインは、ひとり一人がヨナになり、魚のお腹に入ってお祈りをするところだ。予め用意された祈りの言葉を、懐中電灯を持ってお腹の中に入って読み上げ、祈りの後、救出されるというものだった

た。ちょうど夏期伝道実習生として来ていた韓国留学生のY姉がハングルで祈った時には、子供たちが皆が魚の周りに集まり、声を潜めてじっと彼女の祈りに聞き入るという場面もあった。「ヨナは預言者」の歌と劇とが合わり、子供たちが大きな声で賛美する姿がとても印象的だった。これが好評で、夏期学校だけで終わらせるのはもったいないという声が上がリ、再度台本の構成を変えて、幼児から小学科の子供たち全員による劇を発表することになったのが、昨年のクリスマス祝会だった。

ここで少し説明させていただと、半田教会は毎年四回夏期学校を行う。知多奥田キリスト教センター(通称奥田センター)主催の一日夏期学校、半田教会主催の幼小科(四歳〜小学二年生)、小学科上級科(小学三年〜六年生)そして中高青年科夏期学校の四つである。後者二つの会場は岐阜で二泊三日のプログラムだが、幼小科夏期学校は半田教会の伝道所である奥田センターを

会場として一泊二日の夏期学校を実施している。

奥田センターは一九九二年半田教会が約一七キロ南下した知多郡美浜町(人口約二万五千)に開設した伝道所である。夏期学校の会場の一つが美浜町にあるので、地元の子供たちも参加しやすく日帰りの部分参加



船に乗って、いざタルシシュヘ

## 青年カンファレンス

「ユースミッション 2006」

教団では長い間、青年大会は開催されていなかった。この八月、青年カンファレンスの開催を計画した。この発端は昨秋行われた台湾協約の協議会の席上である。台湾基督教長老教会は、毎夏、青年大会を開催しているが、昨年一昨年と日本からの青年を迎えてくたさった。そして、二〇〇六年夏は、ぜひ、台湾の教会青年を日本に送りたいので受け入れて欲しいとのことであった。そのことは、協議会の共同声明にも盛り込まれたことである。

教団三役より委託された教育委員会ほたちたに教務会レベルで相談をし、学生キリスト教友愛会(SCF)や全国教会婦人会連合を交えた実行委員会を組織し、日本の青年を含めた教団としてのカンファレンスを行うように準備を進めた。

第15回総会における機構改正以前は青年伝道専門委員会があったが、現在は、そのような組織はない。従って、こつという実行委員会によって準備、運営をせざるを得ない。教育委員会として当初から計画されていた活動ではないが、台湾との協約関係の豊かさのなかで開催され、教団内の青年たちの交流の場としても大いに生かされることを期待している。

### お知らせ

★宣教師公募

任地 米国・ハワイ・オアフ島／オアフ日本語ミニストリー／任務 牧師／条件 教団正教師／応募締切 2006年6月5日／他詳細はお問い合わせ下さい。世界宣教師協力委員会(☎031320210544)



木口昭太郎さん

## 墓石によって信仰を証して



1937 年生まれ。二紀会会員 玉川教会員。

木口さんは画家である。画家は時間と空間をキャンバスに描きとめることを生業とする。二〇代のように画家を目指し、恩師から自分の絵を描くようにと教えられて、以来、ライフワークとして描き続けてきた。特にキリスト者の画家として追い求めきたテーマはキリストの十字架と復活だった。

先頃、木口さんは自分の描いた絵が立体となつてゆくを経験した。自ら描いた絵をもとに自家の墓石を新しく彫り上げた。このために石を伊豆に求め、友人の彫刻家の協力を得た。

墓石には、十字架とそこにのぼりゆく階段が中心に彫り出されている。それは木の十字架が堅固な石の十字架となつてゆく

先頃、木口さんは自分の描いた絵が立体となつてゆくを経験した。自ら描いた絵をもとに自家の墓石を新しく彫り上げた。このために石を伊豆に求め、友人の彫刻家の協力を得た。

キリストのよみがえりによって栄光の場所とされた墓に置かれる石を刻むことは、復活の喜びにつながるものであろうし、復活の希望に生きてゆくことの証ともなるであらう。

## 2006 年教区総会日程

教区	会 期	会 場	問安使
北 海	5 月 2 日(火) 10:00 ～ 3 日(水) 15:00	札幌教会	鈴木伸治
奥 羽	5 月 23 日(火) 12:30 ～ 24 日(水) 15:45	奥羽キリスト教センター チャペル	愛澤豊重
東 北	5 月 30 日(火) 13:00 ～ 31 日(水) 16:00	仙台青葉荘教会、 東北教区センター「エマオ」	小林 眞
関 東	5 月 30 日(火) 10:00～ 5 月 31 日(水) 16:00	大宮ソニックシティー 小ホール	鈴木伸治
東 京	5 月 30 日(火) 10:00～ 5 月 31 日(水) 18:00	富士見町教会	山北宣久
西東京	5 月 28 日(日) 15:00 ～ 29 日(月) 17:00	吉祥寺教会	山北宣久
神奈川	6 月 24 日(土) 10:00 ～ 16:00	清水ヶ丘教会	竹前 昇
東 海	5 月 23 日(火) 13:30 ～ 24 日(水) 15:00	ホテル伊豆急(下田)	鈴木伸治
中 部	5 月 23 日(火) 13:00 ～ 24 日(水) 13:30	名古屋中央教会	山北宣久
京 都	5 月 3 日(水) 10:00 ～ 4 日(木) 15:00	洛陽教会	(問安拒否)
大 阪	5 月 3 日(水) 9:30 ～ 4 日(木) 16:00	大阪女学院ホールチャ ペル	山北宣久
兵 庫	5 月 21 日(日) 16:00 ～ 22 日(月) 18:00	神戸教会	小林 眞
東中国	5 月 22 日(月) 13:00 ～ 23 日(火) 15:00	米子教会、サンルート 米子	小林 眞
西中国	5 月 9 日(火) 13:30 ～ 10 日(水) 16:00	メルパルク出雲	鈴木伸治
四 国	4 月 28 日(金) 13:00 ～ 29 日(土) 15:00	高知教会	鈴木伸治
九 州	5 月 3 日(水) 9:00 ～ 4 日(木) 15:00	九州キリスト教会館	小林 眞
沖 縄	5 月 28 日(日) 15:30 ～ 29 日(月) 18:00	沖縄キリスト教センター	(問安拒否)